

本を選ぶ

高校図書館版

NO. 1 1986年(昭和61年)5月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社(〒162)東京都新宿区下高比町15 飯田橋ハイタウン518 TEL.03-235-6168

ぶっく・えんど

高校生のところをつかむ本を

知人の息子が高校生だったころ、よく家に遊びに来ていた。ある日、上がりこむなり私の鼻先に1冊の文庫本を突きだす。見ると、現代漢字・カナ使いに変えた夏目漱石の『こゝろ』である。

ニキビ面でまくしたてる口上によれば、これはクラスで読書会をやるから読んでおけと先公に言われた本だけど、タリイからあらすじを教えてもらいたい、これから友達とレコード屋に行く約束があるので5分間でチャチャッと頼む、とのこと。

私はメモ用紙に三角形を書き「先生」「お嬢さん」「K」と記入した。友人のKがお嬢さんを好きだと知りつつ、先生が先回りして婚約、絶望したKは自殺、先生は結婚したが苦しみながら生き、最後には自分も自殺……。

「わかった！ 司会のヤツにあてられたら、自分はエゴイストだと苦しむ姿に感動したと言っておこう。ありがと、そいじゃ」

5分どころか3分間で彼は消えてしまった。取り残された私は、日本の高校生はいまだに『こゝろ』を読まされているのか、とためいきがでた。彼より十何歳か年上の私も、高校時代に『こゝろ』の読書会なるものを体験している。「先生」の内面の深刻さを感じるにせよ、戦後に生れた人間にはピンとこないところが多すぎる作品だと思えた。元気のいい女教師が「この作品ではお嬢さんが人間として描けていませんね。文豪の限界をちゃんと読みとりなさいよ」としんらつなアドバイスを

してくれたことを思い出す。

大人になってから『こゝろ』を読み直し、こんなに幼稚で一人よがりな恋愛が原因で、知性派の大人達の人生が破滅するという作品が成立したのは、日本人の精神が跛行的に近代化へと向かったからか、と奇妙な感慨を覚えたものだ。

おそらく名作なのであろうし、文学史上さまざまな意味のある作品だとしても、高校生の集団読書に取りあげるべき普遍的魅力があるのだろうか。

私の偏見によれば、教育界には前例を長く踏襲する傾向があり、一度高校生向きだとされた本は、その座をなかなか降ろしてもらえない。武者小路実篤の『友情』などもそのたぐいであろう。

大人が成長期の若い人に本をすすめる場合、それなりの仁義があると思う。自分が読んで面白くない本を、高校生の君達にはタメになるはずだと押しつけるは、彼らに対して無礼そのもの。

反対に、もし十代のころこれを読んでいたら、その後の自分は多少違う人間になっていたのではないか、と感じる本に出会うことがあるはず。私の場合、リチャード・ライトの「ブラック・ボーイ」やアリス・ウォーカーの「紫のふるえ(原題カラー・パープル)」のような黒人文学にその種の感動を味わうことが多い。

本の洪水の中から若い人々のために選ぶとしたら、そういう思いのこもった書物を。そしてそれを愛読するかどうか決めるのは彼ら自身なのだ。

さて、かのニキビ高校生は、今や高校教師となった。メモ用紙の三角形をタナに上げて『こゝろ』を生徒に推薦したりしたら、当節はやりの過激な体罰を加えてやろうと思っている。

(鈴木由美子：わいふ編集部)

学校図書館の現場から

石山 睦美

学校図書館で“本を選ぶ”といった場合、現状では様々な問題が浮かびあがってくる。本に関する情報に不自由しないとは決して言えない学校現場に、LASから高校版の出版情報が出ることは非常に喜ばしい。だが、後に述べるように、いくら出版情報が充実してきても、それを“選ぶ”ことが困難な状況がいよいよ深まりつつある。以下に、1)実際に選書をする段階での問題、2)選書をする人材(図書館員)の確保や環境の整備といった問題、を提起することによって「民主教育の拠点としての学校図書館づくり」に少しでも多くの協力が得られたらと思う。

1)実際に選書をする段階での問題

学校は“教科書で教える”場から、“教科書を教える”場になったといわれて久しい。進学校は入試の範囲をできるだけ急いで網羅してしまおうとするし、「高校ぐらい出ておかなければ」学校はいかにしていわゆる高校生の一般教養なるものを身につけさせるかということに躍起になっている。

そのどちらも、生徒一人一人の疑問を大切に、その解決への過程を見守っていく余裕はない。学校のカリキュラムが教科書を離れない限り、授業で本を使ってくれない限り、教科関係の資料と生徒との間はどんどん離れていってしまう。その結果、「学校図書館の本は堅くてむずかしくてつまらないものばかり」ということになってしまうのである。これが第一の問題点。

第二は生徒の言う“面白い本”をいわゆる「学校図書館」の枠が排除してしまう傾向にあるのではないだろうか、ということだ。「教育的配慮」とひとことで処理されてしまうことが多いのだが、この場合の「教育」とは一体何を指すのだろうか。疑問を感じ、何がしかの判断を要求された場合にできる限りの解決法を探り、考える力を養っていくのが学習であり、その成長を援助するのが教育

だと思うのだが、実際は「事なかれ主義」「純粹培養」による体制盲信人間の育成ではないのだろうか。“判断力のない高校生に偏った見方を教えることは教育上好ましくない”といわれるのが常であるが、愛知や千葉の禁書問題、「教科書検定」とつながっていく大きな問題である。

2)学校司書をめぐる問題

現在、全国の学校図書館の専任図書館員のほとんどは、『学校図書館法』の附則第2項“当分の間置かないことができる”によって30年間置かれなままの司書教諭の代替職員＝いわゆる「学校司書」である。職名は「実習助手」「司書」「事務主事(図書館担当)」その他様々あるが、「実習助手」である数県以外のほとんどは行政職の事務から図書館へ人をまわして、最近是有資格者をとるようになったという歴史的経過がある。従って校内での司書の発言権も弱く、とかく“行政職なのだから教育に口を出すな”とか“図書館の事務だけやっている”と、本来司書として当然するべき図書館の利用指導やレファレンスが「教育職」「行政職」の間で非常にやりにくくなっている状況がある。また、教育職でないために図書館運営に必要な研修の時間が保証されない(資料研究のために書店や他の図書館へ行きたい場合や図書館関係の研究会・学習会に行きたい場合も、自分の年次休暇を使わなければならない司書が非常に多い)のである。大きい書店もいい公共図書館も近づく、自分が出かけてしまうと図書館が閉館になってしまったり、そうならないまでも明らかに貸出し冊数ががくんと減ったりすれば、学校司書をとりまく環境がいかに厳しいものか、おわかりになっていただけるであろう。

さらにまた、行革のあおりで各地で学校職員の減員がおこり、定数法上裏付けのない学校司書が3~4校兼任(各校2~3日ずつ開館)とか、「事務主事(図書館担当)」のカッコ内がはずされて事務に戻され、図書館には補充しないとといった悲惨な状況が広がりつつあるのだ。

教員が余ってきて、司書教諭の資格を持った教員を兼任で図書館へまわそうという動きのある昨今、「教育職2等級・定数法位置付けのある専任の新司書教諭(現学校司書・司書教諭の移行措置を含む)」の学校図書館法改正が現場の悲願なのだ。

(埼玉県立草加西高校司書)

進路と図書館

増田道子

3月の半ば頃、図書館でこじんまりとした図書委員会のおわかれ会を行った。その時挨拶してくれた卒業生に「本を全然読んでいなかったの、図書委員になれば少しは本が読めるかなと思って委員になったけど、読まずに終わってしまった」という反省を述べた男子生徒がいた。ほんの一部分の言葉ではあったが、いつまでも心に残った。彼は委員長も務め、図書委員であった期間に行われた4回の読書会にも全て出席していた。いつも本を読むのは苦手だと言いながら読書会のテキストを読んでいたが、結局彼のなかで読書がその先に広がりを持つことができなかつたということになるのだろう。

図書館で接する人達に事あるごとに読書を勧めているつもりではいるが、こちらの問いかけが漠然としていて、一人一人の持っている興味に関連づけることができなければ、単なる言葉だけで終わってしまう。この高校の生徒の要求に具体的に答えるための図書の選定、運営について細かな対策が必要だと感じた。

そんな矢先、この4月から図書部に入られた先生と、落ち着いた話をする機会を得た。どのようにして図書館を生徒のものにしていったらよいかということが話題の中心だった。その先生が考えておられたのは、「読書を進路に結びつけ系統的な指導ができないものだろうか」ということだった。3年生の担任をなさった時に、生徒が進学や就職の面接の際、読んだ本について満足な返事ができなかったり、当然身についていなければならない知識がなく立往生してしまう例が多く、何とかしたいと感じていたので、そのために図書館を生かしたいと言われた。

もちろん生徒に接する先生がたが様々なかたちで努力をなさっているが、即席に仕上げられないことが多く、また個々人の対応では時間的にも限

界がある。生徒の学びたいこと、知っていなければならないことを予測し、それに対応した図書を用意することができれば、進路指導の底辺が広がるに違いない。図書館の本校でのとる道が一つ見えてきた思いがした。

現在の蔵書のなかには、いくつかの職業についてのガイドブック、それぞれの職業につくために必要な資格や知識について書かれたもの、将来について考えるきっかけをつくる図書も多少ある。それらについて今までは新入生対象に図書館で行うオリエンテーションの際に簡単に触れたり、個々に相談に来た生徒に紹介するに止まっていた。図書館からの働きかけばかりでなく、担任や進路指導部の先生がたとえ連携して、生徒が自分で必要な図書に近づくことを可能にし、また同時に蔵書を豊かなものにして行くことができれば、図書館ももっと身近なものになるかもしれない。

例えば、服飾関係の仕事を希望する生徒には、生地についての基礎的な知識が必要になるだろうし、コンピュータ関係の勉強をしたい者にはコンピュータ化された社会についての考察も必要とされるだろう。こういったことを本を読むことによって解決して欲しい。

その後の図書部の話し合いで、図書館運営の一つの方向として、まず最初に生徒の進路の方向を過去の実績により具体的に把握し、それぞれに役立つ情報を収集することから始めたらということになった。残された生徒の体験談も活用できるだろうし、苦勞なさってきた先生がたからの推薦もお願いしていかなければならない。図書館としても、日々進んでいる社会に対応できるよう、新しい出版情報を手に入れていきたい。

とりあえず3年生向けの差迫った情報源から揃え、将来的には高校3年間をそれぞれの段階にわけて積み上げていければという話にも進んでいった。第1段階で自分の将来について考え、第2段階で社会について知り自分が何に向いているかを考え、第3段階で選んだ方向について必要な知識を学ぶ。その場の偶然や思いつきで職業を選択するのではなく、このような段階を踏んでほしいし、そういう方向付けをしなければ真の進路のための読書とはならないと言える。

計画は遠大なものになったが、どこまでできるか皆目見当もつかない。また、取り立てて新しい試みと言えぬわけでもないが、図書館に本を並べ

て利用を待つことから脱け出し、他の先生がたと協力して、生徒一人一人を対象に、より具体的に要求に応じられる図書館づくりのきっかけにしていきたいと思う。(都立南野高等学校・学校司書)

★ ★

学校図書館雑感

小田光子

学校図書館は、昭和28年制定の学校図書館法で「学校には学校図書館を設けなければならない」と定められているもので、その目的は教育課程の展開に寄与すること、健全な教養の育成をすることとされているが、その目的を達成するには施設面、資料面、職員面等それぞれに解決すべき問題をかかえ、その進展は遅々としたものである。

まず施設面では、設置場所が3、4階にあるのが多く、面積も教室2つぐらいで、特別に図書館用に建設されていない場合が大半である。近年、公共図書館では、階段をなくし道路からスムーズに入れるよう工夫され、館内も清潔で明るく、ゆったりした雰囲気ですべて読書できるようにされつつあるのに比べると、数段のひらきを感じる。利用者が若い生徒達であるためか、必要とあれば少々のお金はかかるとは思いますが、読書をすすめる私達の立場からすると困った事という感じを受ける。

次に資料面、少しでも多くの生徒達に利用してもらうためにも、資料が魅力的なものである事は重要であるが、学校図書館の資料費というと、市内中学校において4、50万円、本校の場合のように比較的恵まれている学校でも320万円程で、年々値上がりする本代に比べその伸び率は低く、継続図書、金額のはる辞書事典類を購入し、残りで新刊書を購入するとすると、図書選択には頭も心も悩ます。

次に職員面、学校図書館法第5条で「学校には学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない」とあり、2項では「司書教諭は教諭をもって充てる。……」とあるが、県下の場合1、2名で、その代わりに私達のような

司書、司書補、期限付きの臨時職員が学校司書として配置されている。身分は事務職に扱われるが、実際の仕事は学校行事にかかわる事ばかりで、事務の方からも教員の方からもはじき出された立場にあり、困惑することもある。学校図書館が設置された段階で、教育課程の展開に寄与する目的からも、司書教諭が配置されることが正常ではないだろうか。しかし法制定後30余年たっているが、司書教諭はむろん学校司書すら配置されていない学校がある。岡山市内中学校の学校司書の配置はほぼ100%に近いが、県下109校の高校の内76校に配置され、その内16校が県費職員で、他は期限付き臨時職員が私費で雇用されている。期限付き臨時職員の方々は司書資格を有しているが、「1年目に仕事を覚え、何か計画してやっていこうと思う2年目に期限が切れて残念」と言っているのを聞く。昨年、高梁市で開かれた中国地区学校図書館研究大会の決議事項の1つに、学校図書館に司書教諭の配置をという要望事項が採択されたが、最近の行革がすすめられている状況下では、道はまだまだ遠いと言える。公共図書館では考えられない、司書のいない学校図書館がどういう状態にあるだろうか。

開館時間が1週間のうち2、3日であったり、午後のみとか。又本が右から左へと配架されていたり、目録のとり方、分類のしかたも担当した人のそれぞれの考えでされているため統一されていない。又利用しにくく、探している本が見つけれず終るという結果になることもあるようだ。

近年、公共図書館にはコンピュータの導入、図書館間のネットワーク化が進められ、より細やかなサービスの充実で市民生活に根をおろし、図書館の重要性は拡大しつつあることに比べ、学校図書館はますます水をあけられるのではないかとと思われる。

利用者である生徒達の活字離れが問題視されたり、受験戦争の影響で勉強に追われ、読書しようという時間も心のゆとりも持てない生徒達を目の当りにすると、青春時代の思い出として一冊でも良いから読んでほしいという思いと、少しでも図書館に親しめるように、魅力ある図書館づくりに取り組む必要を感じる。微力な一司書として、公共図書館から転勤してきた司書として、ささやかな目標は、図書館の利用方法とマナーを伝えたいということである。以前公共図書館に勤務した時、

来館した大学生の図書館利用の程度の低くさにびっくりしたからである。

生涯学習の場として、余暇の有効利用の場として、図書館の働きはますます大きくなっていく現在、学校図書館が学校の一施設に終ることのないようにしたい。その重要な時期が来ているように思われる。(岡山県立岡山操山高等学校)

★ ★ ★

都立高校司書教諭が やって来たこと

鬼頭 徳子

学校図書館法が制定されて30余年、東京都に司書教諭の制度がしかれて20余年たちました。まったく新しい制度であったため、教職員の間でも、生徒にとっても、なかなかそのイメージが定着しないで、大変苦勞の多い毎日でした。そんな状態の中で、それぞれの司書教諭は、配置された学校の実態をふまえながら、様々な実践を行って来ました。

それらの実践の一部は、組合の教育研究集会(都立高校、全都、全国の各段階で)や学校図書館関係の研究会で発表されたり、図書館関係の、或いは、学校図書館関係の雑誌に発表されています。しかし、目にふれる範囲がせまかったことは否めないでしょう。

学校図書館法改正が叫ばれて久しく、いろいろな“改正案”や、改正のための考え方が出されましたが、そのときどきの事情で改正までいかず、現在にいたっています。でも、学校には、司書教諭が必要なのだと私たちは考えています。そして東京都高等学校教職員組合司書教諭対策委員会もしかりです。そのことを多くの方に理解していただくには、具体的に今まで司書教諭がやって来たことを知っていただく必要があると考えました。

「軌跡—都立高校図書館の教育実践」は、そのために作られた小冊子です。「第1集」は第1集と銘打っておりませんが、'83年10月に、第2集は、この3月末に発行されました。少しでも広く知っていただくために、この紙面をお借りしてお知ら

せする次第です。内容が正確に伝わることを願って、以下に目次を写させていただきます。

第1集／・教育課程の中に図書館利用・自由読書の時間を／・積極的に生徒に働きかける図書館活動／・教科外活動の一こまに取り上げた「情報処理」ゼミのこと／・参考図書を使つての演習——一年生秋の図書館オリエンテーション——／・授業改革〈自主ゼミ〉とその後——根づいた学図の位置——／・知的労働としての手仕事——切抜き実習を授業の中で——／・高校学習入門としての試み／・全校読書感想文コンクール・18年間の記録／・ある“試み”三年生対象のサークル読書会／・高校生の知的生活度／・図書館週間——12年目を終って——／・学校祭に図書委員会として取り組んだこと——読書傾向調査と東京文学地図——／・日野高校図書委員会／・神代高校図書館の20年／・図書館主催の講演会について——6年目の報告

第2集／・自由読書を軸にした選択講座「教養社会」を担当して／・学校図書館における選書の問題／・これからの読書指導／・「調べる」ことの実践として／・推薦図書リストをどう作ったか／・はだしのゲンの道をたどる／・都立高校一年生の読書生活／・進路講演会と図書館活動／・みんなでもう——PTAむけ推薦図書——／・「蔵工記念館」の創設まで／

さて、臨調路線による行政改革は、多くの国民の願いを無視する方向で、生活の諸分野の中で着々とすすめられています。一度は廃案になったものの、国家機密法制定の動きは相変らずあり、教育の面では「臨教審」の答申にもみられるように、ますます非民主的で管理強化の方針が出されています。その中で私達はいじめなど荒廃のいちだんとすすむ教育現場で、夢を失いやる気を失いがちな生徒たちをかかえて、よりよい教育をめざしてがんばっています。今、こうした状況にあるからこそ、学校図書館は、自主的に学習や読書にとりくみ、学び方の技術を身につける場としての機能を十分に果たし、生徒ひとりひとりが基礎的な学力を身につけ、健康で実りある高校生活を送るために、なお一層努力することが求められていると思います。そして、学校図書館がその機能を果たすためには、担当する職員の高い資質が求められます。“とにかく人を”ということでは、あとに禍根を残すことになることは明らかなです。私たち

司書教諭は、豊かな教育経験をもち、教師の教科教育その他への援助などのできる司書教諭と、教育職二等級の学校司書が、学校教育・学校図書館教育の充実発展のために必要不可欠であると考えています。

なお、「軌跡」は組合での発行部数は予算の関係で限られているため、その著作権を借りて増刷してあります。ごらんになりたい方は、筆者までご一報いただければ幸いです。(都立深沢高校司書教諭)

公共図書館と十代の子どもたち

学校図書館と公共図書館との関わり、あるいは連携という課題は、あきることなく繰返されるけれど、実りのある話は、極めて少ない。そしてその多くは、小・中学校というよりは小学校との関係で、児童サービスの範囲でということになる。

これはこれで大切な問題であるが、ここでは、十代の子どもたちと図書館という視点で考えてみることにしよう。私は公共図書館の施設計画にたずさわることが多い。新築のための計画づくり、そして設計。このとき、計画面でも実際の建築でも、十代の子どもたちへの〈図書館サービス〉としては、殆んど何も無いことに気づく。いま図書館へ行ってみると、いわゆる児童のためには、200㎡、300㎡というスペースをさき、本もたくさん用意していながら、十代の子どもたちのためにと

例によって例のごとき〈学習室〉オンリーなのである。そこのお客さんは高校生あるいは受験浪人。そして、席札をくばったり、監視用テレビカメラを設けたり、という。

たしかに、現象としては子どもたちの本離れということもあるにはちがいない。本との関わりだけでなく、生活時間そのものも悲劇的な枠組みにとじこめられているだろう。しかし、だからといって図書館に何の策もないというのは、どういうことだろうか。

大人には大人の、子どもには子どもの、生活パターンがある。大人にしても子どもにしても、一色ではない。十代の子どもたちを考えると、その子どもたちの生活パターンの変化をくみとり、そのパターンにあわせる図書館サービスがなければならない。音響や映像に親しむこともいい。仲間どうしのおしゃべりもいい。もちろん本を読み、受験勉強にとりくむことも妨げられない。

とすれば、図書館の施設もそれに合わせた工夫がいるし、広さも必要である。閉じたかたちの学習室を否定するだけでなく、子どもたちに開かれたサービスの創造とスペースづくりに、図書館はもっと真剣にとりくんでほしい。そして、サービスの創出に、十代の子どもたち自身が乗り出してほしいと思うのだが……。

日々十代の子どもたちと接している、高校図書館の司書、司書教諭の皆さんは、どうお考えになるでしょう。(菅原 峻)

DMかたろぐ

■第37回毎日出版文化賞特別賞／日本地学教育学会推薦

日本化石集 全58集 十別集

■責任編集—湊正雄・浅野清・松本達郎・大森昌衛・水野篤行
小島郁生・神谷英利・栗原謙二・森啓・勸米良亀齡・平野弘道
■A4変形判 各集6シート 各集1500円 全集揃価88500円

生態学辞典 増補改訂版

沼田真編 A5変形判 550頁 上製函入 ¥8500

恐竜図解事典

グラット著 小島郁生訳 B5判 図版380 ¥3500

① 築地書館 〒104 東京都中央区築地2-10-12
☎03-542-3731 振替東京1-19057

東海大学出版会

東海大学ライフサイエンスシリーズ
B6判 定価1000円 既刊13冊

自然をしらべる地学シリーズ
地学団体研究会編 B5判 各巻2000円(全5巻)

生物学教育講座
沼田真監修 A5判
セット価22600円(全10巻)

新地学教育講座
地学団体研究会編 A5判
各巻1600円(全16巻)

フィールド図鑑
第1期全10巻 各巻2000円

〒160 東京都新宿区新宿3-27-4東海ビル



視聴覚ライブラリーに最適の

●LPレコードとカセットテープ

- ① 楽しいコーラス 10枚(本)組 各20,000円
グループ、女声合唱、混声合唱とコーラスのすべてを網羅。
- ② NHKにつぼんの詩 8枚(本)組 各19,000円
心うつ日本の抒情歌を、一流アーティストによる歌と演奏で。
- ③ バンドの響き(吹奏楽の楽しみ) 10枚(本)組 各18,000円
オリジナル有名マーチからクラシック、ポピュラーの鑑賞と範奏に最高。
- ④ ギター名曲大全集 10枚(本)組 各20,000円
セゴビアのバハから、ギターの名曲、ポピュラー曲まで一流アーティストで編成。
- ⑤ 世界名曲コレクション15枚(本)組 各27,000円
カラヤン/ベルリンフィルをはじめ世界のトップアーティストによる名曲演奏。
- ⑥ ザ・ビートルズボックス 8枚(本)組 各18,400円
歴史に残るザ・ビートルズの世界唯一残された全集。

東芝EMIファミリークラブ 〒100 東京都千代田区永田町2-4-7
☎ 03(592)2020 振替 東京8-78427

〈子どものためのライフスタイル〉

全6冊好評完結!

考える練習をしよう

M・バーンズ 左京久代訳 頭の楽しい屈伸運動。 1600円

どこでもできるスポーツ

T・シュナイダー 堂浦恵津子訳 新スポーツ読本。 1800円

カラダにいいものを食べよう

M・バーンズ 鶴田静訳 カラダと食べ物との関係? 1800円

自立する子どもになろう

M・バーンズ 永田美喜訳 今を生きるための本。 1800円

自然と友だちになるには?

M・ライツ 福井伸子訳 自然とつきあう方法。 1800円

きみも音楽家になれる

T・ウォルサー 福山敦夫訳 楽器を手作りしよう。 1800円

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12 電話03(255)4501

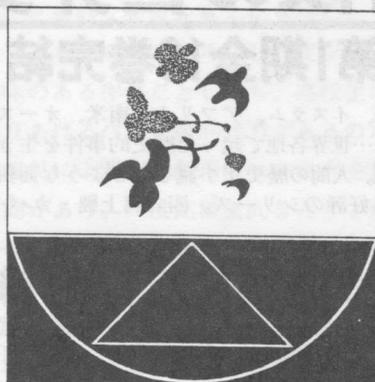
ニューサイエンスをリードする学術専門出版

朝倉書店

'86 ブックチャート

ニューメディアによる変容、活字離れ、軽薄短小ブームに象徴される昨今ですが、小社では明日のわが国の担い手である若い読者に、感動と科学する心を育む良書の出版をたえず目指しております。
図書選定の資料にご活用下さい。

東京都新宿区新小川町6-29 〒162 ☎03-260-0141



好評の姉妹編
日本史分類年表

定価14,500円

B5判・上製本ケース入り・512ページ
特価11,900円(61・12未迄)定価11,000円

村上直・高橋正彦編
●資料百科・図表満載の1冊本●古代史ブームに放つ歴史レファレンス・ブックの決定版●図や絵が豊富で見ただけで楽しい●歴代天皇の肖像
江戸大道商人姿など多数の新資料掲載
61年5月下旬発売

日本史資料総覧



『数学マイウェイ』
編集委員会編

数学マイウェイ
数学I

全8巻
定価各1400円

1. 飛べ文字の翼で
数と文字式
2. 関数はBackBox
——(2次関数へ上)——
3. ポールの軌跡
——(2次関数へ下)——
4. 式が描くかたち
——図形と方程式——
5. ベクトルの威力
——図形と方程式II——
6. ピラミッドの高さ
——三角比——
7. xの謎を追え
——方程式と不等式——
8. 数学Iの展望台
——複素数・幾何・論理——

全国学校図書館協議会/日本図書館協会/歴史教育者協議会=選定図書

日本の歴史 全10巻(分売不可)

●家永三郎編 A4判変型・各216頁・カラー32頁・定価35,000円

ほるぷ出版

〒160 東京都新宿区新宿2-19-13 ☎(354)7031

東京書籍

〒113 東京都文京区本駒込6-14-9
TEL 03-942-4111

日本のしるし
 高橋正人著 定価各四、三〇〇円
 伝承デザイン資料集成 商家諸職編 全4巻

商家お大尽が愛用した身のまわりの品々や商売道具、看板、商標、蔵、瓦、のれん、船などに使われた、造形的にすぐれた伝承デザインを最大成し、精細な考証の解説を付す。

■体裁 総図版一三〇〇余枚 菊倍判
 1 家のしるし
 2 諸業種家しるし
 3 商品・業種家しるし
 4 火消・船・講・まじないのしるし

朝日新聞評 十年がかりで採集し整理した成果
 読売新聞評 造形的にすぐれた欧化の影響のないしるしを分類し記録

武家のしるし 全1巻 高橋正人著 一八、〇〇〇円

岩崎美術社 東京文京本駒込3-39 電話03(824)1731

既刊300点! 一辞典づくり40余年—

定評ある東京堂の辞典シリーズ

●おすすめしたい必備図書

中島河太郎編 B6判・426頁・2800円

日本推理小説辞典

鈴木幸夫編 B6判・304頁・2900円

英米名句名言辞典

中西庚南編 菊判・816頁・7000円

近代篆刻字典

福井英一郎他編 四六倍判・160頁・4800円

日本・世界の気候図

東京堂出版 〒101 東京都千代田区神田錦町3-7
 ☎03(233)3741 内容見本進呈

冒険の世界史

第1期全10巻完結

地中海、イスラム、アフリカ、南米、オーストラリア……世界各地で起った歴史的事件を生き生きと再現。人間の歴史が小説を読むような面白さで学べる好評のシリーズ。四六判上製・カバー装。

うたの絵本●全12巻完結

思い出の童謡、唱歌、わらべうたと日本童画史上に輝く画家達の絵の組合せ。各巻650円。

リプロポート

東京都豊島区南池袋1-16-22 ☎03-983-6191

初回配本以来5年に渡り逐次刊行中! シリーズ全25巻完結間近!

BBCミュージック・ガイド・シリーズ

最新刊 第23回配本(5月10日発売)

ヴォルフ/歌曲

M. カーナー著
 河村讓二訳
 千蔵八郎監修
 B6判/160頁/980円



イギリス国営放送BBC出版部が世界に誇る、英国最高峰執筆者により書かれた名曲解説シリーズの完全訳本! 音楽を志す者の必携書!

発行: 東芝EMI音楽出版株式会社
 発売: 株式会社日音プロモーション
 営業部: 〒116 東京都荒川区西尾久7-50-7
 三博ビル2F TEL.03(800)8820

アーカム・ハウス叢書
呪われし地 C.A.Sミス著 小倉多加志訳/鬼才スミスの描く万華鏡の如き世界を集成。短篇15篇収録。定価三三〇〇円

悪魔なんかこわくない M.W.ウエルマン著 深町眞理子訳/銀のギターのジョンが様々な怪異を次々と撃退。(五月刊) 予価三二〇〇円

世界幻想文学大系144

月世界への旅

M.H.ニコルソン著 高山宏訳/コズミック・ウォエッジ(宇宙への旅)をテーマにした文学の分析を通し、西欧の他界観・宇宙観を探る「記念史学派」の記念碑的名著。特に17-18世紀のケプラー、ウィルキンズ、ミルトン、キルヒャーらの作品を仔細に検討。その驚くべき文学的全貌を描く。(五月刊) 予価三七〇〇円

国書刊行会 〒170 東京都豊島区巣鴨3-5-18 ☎03(917)8287

高校図書出版会

全国の学校・公共図書館に信頼されて26年!
 毎年定評ある巡回訪問販売を続けています

当会は高校図書館・大学図書館及び公共図書館等の蔵書充実を目的とし、その一翼を担う有志出版社で構成された巡回訪問販売等を行うグループです。
 皆様の図書ご購入の参考としてお役に立てばと願っておりますので当会をご利用たまわれれば幸いです。

岩崎美術社 三修社 啓学出版
 研究社出版 淡交社 東京書籍
 東京堂出版 ベースボール・マガジン社 保育社

高校図書出版会事務局(岩崎美術社内) 03-824-1731